

大阪市中央公会堂
令和6年度 事業報告
(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

令和7年3月31日

サントリーパブリシティサービスグループ

大阪市中央公会堂 令和6年度 事業報告書 目次

表紙

1. 指定管理者の名称、事務所所在地 及び 担当者連絡先	P.1
2. 組織体制及び定期報告等	P.1
1) 組織体制	
2) 運営状況の報告及び情報共有の定期的な実施	
3. 施設の利用状況	P.2
1) 利用稼働率	
2) 利用料金収入	
4. 施設における収支状況	P.3
5. 業務実施状況	
1) 「重要文化財・大阪市中央公会堂」PRとにぎわいの創出	P.5
(ア) 特別室ガイドツアーの実施	
(イ) 大阪府立中之島図書館とのコラボガイドツアーの実施	
(ウ) コンシェルジュサービスの導入及び東側鉄扉の開放	
(エ) 館内スーベニアショップ（公会堂グッズ販売）の運営	
(オ) 展示会の企画運営	
(カ) 免震装置の視察受入	
2) 利用促進活動	P.6
(ア) 貸館の促進活動	
(イ) 利用者の利便性向上	
(ウ) お客様満足度の向上	P.8
3) 自主事業の実施	P.10
(ア) 駅から始まるアートイベント『キテ・ミテ中之島2024』連携事業	
(イ) 講演会 いよいよ万博	
(ウ) 公会堂わくわく探検隊	
(エ) 生きた建築ミュージアムフェスティバル	
(オ) 大阪中之島 名建築ガイドツアー	
(カ) 特別見学会 ～歴史と意匠～	
(キ) オプショナルガイドツアー	
4) 広報活動（情報発信及び利用促進業務）	P.16
(ア) 公会堂HPを活用した情報発信	
(イ) プロモーションビデオの運用	
(ウ) Xによる情報発信	
(エ) 記事掲載・HP掲載・メディア（新聞・TV・ラジオ・雑誌等）での 公会堂紹介	
5) 利用者モニタリングの実施	P.19
(ア) 施設利用者アンケート	
(イ) 特別室ガイドツアーアンケート	
6) その他	P.20
(ア) 感染症拡大防止施策への協力と対応	
(イ) 施設整備におけるトラブル予防及び来館者の安全確保への取り組み	

※別添資料 資料① 稼働率一覧

1. 指定管理者の名称、事務所所在地 及び 担当者連絡先

サントリーパブリシティサービスグループ

代表構成員

東京都江東区豊洲 3 丁目 2-24 豊洲フォレシア 16 階

サントリーパブリシティサービス株式会社（以下 SPS）

代表取締役 千 大輔

構成員

大阪府大阪市中央区船場中央四丁目 1 番 10-203 号

一般財団法人大阪教育文化振興財団（以下財団）

理事長 出海 健次

担当者：大阪市中会堂 館長 西村 邦彦（SPS文化ハピネス事業部）

同連絡先：大阪市中会堂（以下公会堂）

〒530-0005 大阪市北区中之島1-1-27

TEL：06-6208-2002 FAX：06-6208-2003

2. 組織体制及び定期報告等

1) 組織体制

館長の下に副館長 2 名を配し、うち 1 名を管理事務（全体窓口・総務・経理等）、他の 1 名を施設管理（設備・警備・舞台運営管理）の担当責任者とし、更に設備・警備及び舞台操作には各専門企業から適切な人材を配置した。

【運營業務分担及び担当員数等】

館長 1 名

副館長（管理事務） 1 名

副館長（施設管理） 1 名

舞台操作業務担当者 1 名

設備管理担当者 1 名

管理運営責任者 1 名

利用促進担当 1 名

広報・事業企画責任者 1 名

経理担当 1 名

コンシェルジュマネージャー 1 名

コンシェルジュ 4 名

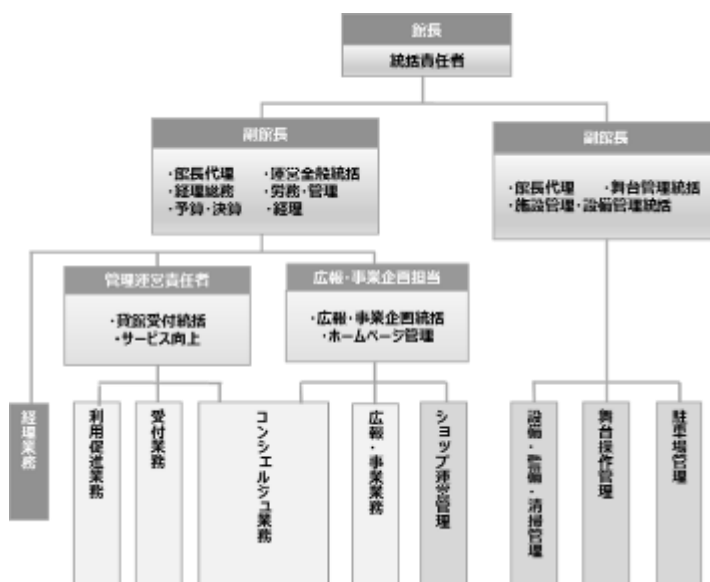
受付担当 5 名

ショップ運營業務（グッズ販売） 1 名（兼務）

警備担当 3 名

※上記職員等を時間帯別に配置して運営

※ショップはグッズ類を窓口や通信での販売にて運営。



2) 運営状況の報告及び情報共有の定期的な実施

前月の運営に係る業務報告並びに課題抽出と改善策の検討を各月の第 4 週に定期的に大阪市経済戦略局文化部担当者と実施した。

当該運営に関する会議に加え、偶数月は設備機器関連の稼動状況及び修繕等を報告し、奇数月は館内レストラン「中之島ソーシャルイートアウェイク」のオーナー・店長とイベント情報や意見交換の場を設け連携強化を図った。

■会議開催日

実施月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
実施日	25 日	23 日	27 日	30 日	22 日	26 日	24 日	28 日	26 日	27 日	27 日	27 日

3. 施設の利用状況

1) 利用稼働率

	令和 6 年度実績		令和 6 年度 事業計画	令和 5 年度 実績
		計画比		
利用総区分数	12,647 区分	103.7%	12,200 区分	12,144 区分
稼働率（全体）	72.0%	104.0%	69.2%	69.1%
稼働率（集会室）	71.1%	106.1%	67.0%	69.1%

※稼働率＝稼動区分数計÷「3 区分÷日×貸室数×稼動日数」

※集会室の稼働率は、大集会室、中集会室、小集会室の平均を指す。

2) 利用料金収入

(円)

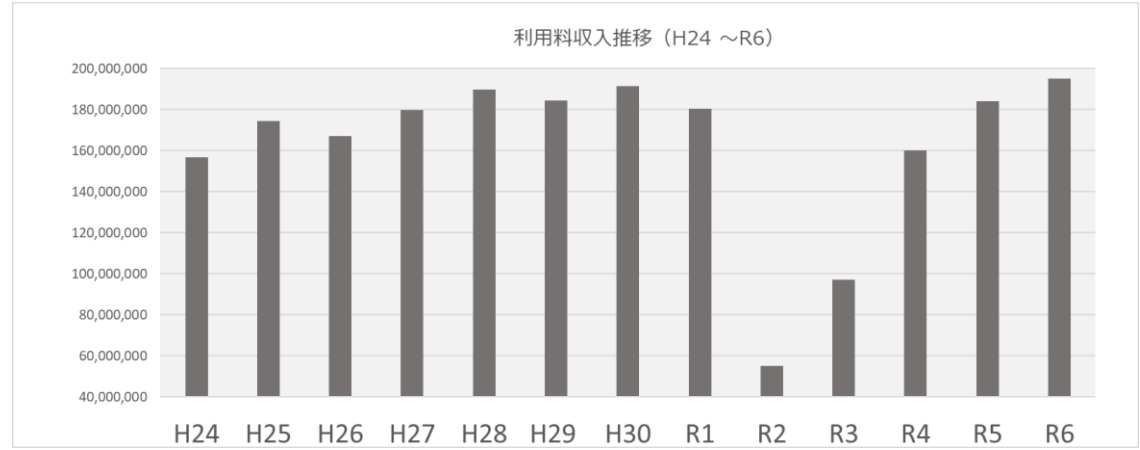
	令和 6 年度実績		令和 6 年度 事業計画	令和 5 年度 実績
		計画比		
室料	171,317,459	106.4%	161,042,000	160,269,849
附属設備利用料	23,958,245	100.0%	23,958,000	23,982,224
合計	195,275,704	105.6%	185,000,000	184,252,073



※利用料金収入は室料と付帯設備料の合計額から算出（単位：円）。

全体稼働率は72%（計画比104%）、利用料収入は195,275,704円（計画比105.6%）といずれも前年・計画を超え、指定管理者が運営者となった2006年以降、過去最高記録を達成した。全館を利用した医療学会や音楽イベント、また中集会室をメイン会場とした連続開催の展示会やマルシェ利用等が増加し、3階フロア（中集会室・小集会室・特別室）の稼働率を押し上げたことで、利用料収入の増加に繋がった。その他、企業へのDM発送や下見会の開催等、貸会場としてのPRを積極的に行うことにより、大規模催事に利用される大集会室・中集会室・小集会室等の稼働平均は71.1%となり、利用料収入同様に過去最高の数値となった。

【参考】利用料収入の推移 平成24年度～令和6年度



4. 施設における収支状況（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

令和6年度 収支報告書

(単位:円/消費税込)				
項目	内 訳	年間計画		年間進捗率 (%)
収入	利用料金収入	185,000,000		195,275,704 105.6%
	その他収入	59,322,000		70,536,151 118.9%
	舞台人件費等	44,900,000	56,422,400	125.7%
	レストラン収入	8,712,000	8,712,000	100.0%
	グッズ収入	1,400,000	1,319,561	94.3%
	ガイドツアー収入	4,300,000	4,073,580	94.7%
	その他雑収入	10,000	8,610	86.1%
	自主事業収入	37,080,000	44,555,047	120.2%
収入の計		281,402,000	310,366,902	110.3%
支出	人件費	89,253,000	89,307,566	100.1%
	事務費	16,493,000	14,515,492	88.0%
	管理費	130,916,000	141,243,655	107.9%
	広告費・宣伝費	3,700,000	2,762,843	74.7%
	光熱水費	40,157,000	43,087,568	107.3%
	自主事業経費	5,780,000	7,729,167	133.7%
	租税公課	2,665,000	4,219,519	158.3%
	大阪市納付額	2,808,000	2,808,000	100.0%
支出の計		291,772,000	305,673,810	104.8%

収支報告書について以下の通り報告する。

● 収 入

収入計は 310,366,902 円（計画比 110.3%）となり、計画差異+28,964,902 円、前年に対し+25,457,350 円となった。利用料金収入は 195,275,704 円と前年から 11,023,631 円増加し、上述の通り、この約 20 年間のうち過去最高記録を達成した。稼働率の上昇に伴う舞台技術者の人件費収入等も増加（計画比 125.7%）した。

「自主事業収入」については、「いよいよ万博」「生きた建築ミュージアムフェスティバル」はイベントの主旨から沢山の方にご参加いただけるよう参加費無料としたが、「大阪中之島 名建築ガイドツアー」「特別見学会」「公会堂わくわく探検隊」等のチケット収入が好調で、ほぼ計画通り推移した。また「早朝・深夜における貸館対応」の需要は依然として多く、特に大型展示会の仕込みや映画撮影の為にオールナイト対応による売上が大きく、合計額は 44,555,047 円（計画比 120.2%）となった。

● 支 出

支出計は 305,673,810 円（計画比 104.8%）となり、売上増に伴う委託費等の増加により計画を上回った。

「事務費」内に計上した「修繕費」は、劣化が激しいトイレ関係の修繕（3 件）や集会室のプロジェクター、マイク等の経年劣化に伴う緊急修繕及び予防保全の為に補修を行い 2,524,256 円（計画比 64.7%）使用した。その他、「システム運営費」はメール対応やオンライン打合せ等の導入に伴うパソコンの増設と単価上昇等により、2,474,712 円（計画比 126.9%）となり、全体として 14,515,492 円（計画比 88%）となった。

「管理費」は、舞台技術者の発注増加に伴う委託費が増加（計画比 123.4%）した以外は、ほぼ計画通り推移し 141,243,655 円（計画比 107.9%）となった。

「光熱水費」については、昨今の燃料価格の高騰を受けて予算を上乗せして計画していたものの、前年比で 5,760,481 円増の 43,087,568 円（計画比 107.3%）となった。

「自主事業経費」については、早朝・深夜における貸館対応の売上増に伴う委託料の増加があり、7,729,167 円（計画比 133.7%）と大きく計画を超えた。

人件費や物価・エネルギーコストの高騰の影響はあったものの、上記の通り、長年の利用促進活動による利用料収入の増加と、それに伴う時間外対応の収入増加により、収支差は+4,693,092 円と黒字となった。

5. 業務実施状況

1) 「重要文化財・大阪市中央公会堂」PR とにぎわいの創出

(ア) 特別室ガイドツアーの実施

定例開催（週2回）の「特別室ガイドツアー」を継続して実施した。昨年、テレビの情報番組でガイドツアーが取り上げられた影響が大きく、年間を通して参加者数は定員の84%を達成しており、依然として高いニーズがある。

(イ) 大阪府立中之島図書館とのコラボガイドツアーの実施

令和4年度より、上述した特別室ガイドツアーの一部を隣接する大阪府立中之島図書館（以下、図書館）との合同開催とした。図書館内のレストラン「スモープローキッチンナカノシマ」でのモーニングの後に、図書館と公会堂をそれぞれのガイドスタッフがご案内するという内容で実施。中之島を代表する竣工100年を超える二つの重要文化財を一度に回る機会を創出することで、中之島エリアのPRに繋がられた。

■参加人数

(人)

年度	R6年									R7年			合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
R6	226	219	230	215	161	197	171	224	147	161	152	168	2271

■参加内訳

参加コース名	参加人数
ベーシックコース（500円）	709 人
スペシャルコース（2,500円）	1456 人
図書館コラボツアー（2,400円）	106 人

参加時間	参加人数
10:00～	1,032 人
11:00～	1,239 人



コラボツアーの様子

(ウ) コンシェルジュサービスの導入及び東側鉄扉の開放

大集会室の利用がない日に限り、通常は大集会室利用者専用としている東側鉄扉を開放して観光客等を受け入れた。

特に多くの来館が予想される日にはコンシェルジュを配置し、ロビーにて公会堂のプロモーション映像を流して歴史や室内のみどころをご紹介しますとともに、大集会室を開放して自由見学を可能とした。またプロモーション映像の二次元バーコードを提示し、ご自身のスマートフォンからアクセスを促し、動画を通して各部屋の様子を知っていただけるようにするなど、多くの方々に公会堂の魅力を発信した。



開放日はSNSにて告知

(エ) 館内スーベニアショップ（公会堂グッズ販売）の運営

公会堂をモチーフにした焼菓子、クリアファイル、ピンバッチ、メモ帳などをラインナップし、地下1階の公会堂事務室の窓口販売及び公会堂公式HP（以下、公会堂HP）内での告知による通信販売を行った。販促チラシや展示室や事務所窓口の商品ディスプレイで商品PRを行ったほか、貸館利用者を対象とした大口割引制度を取り入れたことで一定の売上を獲得できた（年間売上 1,319,561 円）。

(オ) 展示室の企画運営

長らく企画展示コーナーとして使用していたスペースを、以前に常設していた「大阪市パノラマ地図」関連の展示にいったん戻すとともに、既存のパネルに加え、公会堂が創建された時代の大阪市全体の発展状況について、より理解を深めることができる解説・写真パネルを追加し内容の充実を図った。

また、大阪大学名誉教授・橋爪節也氏ならびに大阪府古書籍商業協同組合様と連携し、「大阪古書組合創立100周年記念展示」を令和7年1月29日より2月27日の会期で実施した。

古書類の蒐集・販売を通じて大阪文化にまつわる貴重な史料の保存・継承に大きな役割を担ってきた数多の在阪古書店に関わる史料を紹介することにより、多彩な大阪文化の一面を知る機会を見学者に提供することができた。



企画展示の様子

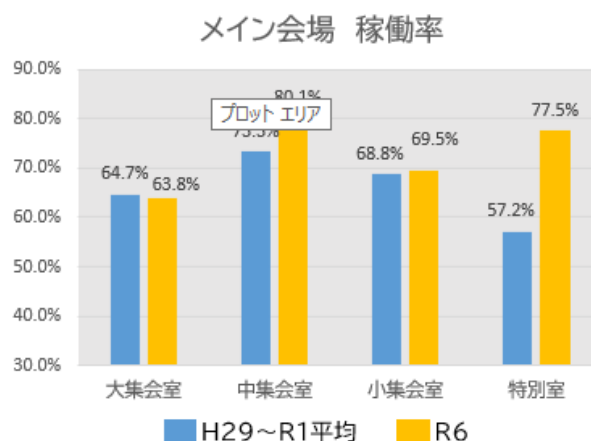
(カ) 免震装置の視察受入

今年度の視察受入実績は1件。

2) 利用促進活動

都市魅力発信に繋がる大規模催事の予約を合計13件獲得し、年間目標である10件を達成することができた。

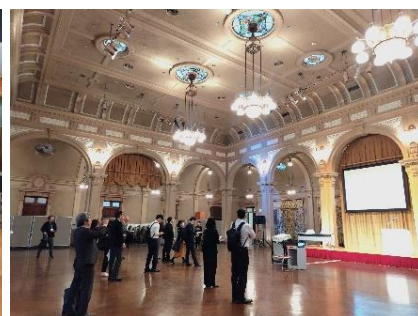
コロナで一時期稼働状況が悪化したものの、地道な利用促進活動を継続したことで、利用料収入及び稼働率は大きく伸長した。特に中集会室、特別室は3階フロア利用や前撮り撮影など客層の変化が見られ、コロナ前の3年間平均と比較しても顕著に伸びており、長年の利用促進活動の成果といえる。



(ア) 貸館の利用促進

① 貸会場内覧会の開催

大規模催事の利用促進を目的として、「企業向け貸会場内覧会」を開催した。この企画は、学会等の大型イベント運営を代行する企業及びMICEをサポートする旅行会社を対象に行われ、総勢 19 社が参加した。当日は施設の見学だけでなく舞台操作の実演も行い具体的な使用イメージを提供した。



内覧会のご案内チラシ

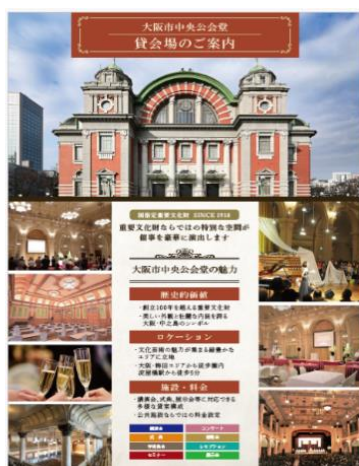
内覧会当日の様子（大集会室・中集会室）

② 貸会場のご案内の送付と架電の実施

過去に大集会室をご利用いただいた休眠客 75 団体に、貸会場のリピート利用を促すための活動として貸会場のご案内の送付（DM）と架電を実施した。

③ Google ビジネスプロフィールの活用

Google ビジネスプロフィールを利用し、貸会場のご案内や写真をインターネット検索画面上に掲載することにより、インターネットユーザーに対して公会堂の貸館としての認知度の向上を図った。



貸会場のご案内チラシ



Google ビジネスプロフィールの活用

(イ) 利用者利便性向上

① 合同下見会の定期開催

稼働率が高いため下見の機会に限られる中集会室を対象に、定期的な合同下見会を開催した。今年度は、幅広い顧客ニーズに応えるために夜間の実施も行った。

② PayPay 支払い

昨年度から引き続き、キャッシュレス決済手段として PayPay をご案内し、支払い方法の選択肢を増やすことによりお客様の利便性を向上させた。主に会議室の室料、ガイドツアーや自主事業のお支払いなどにご利用いただいた。

③ オンライン対応の拡充

お客様のニーズに応じて、仮予約受付票や予約申込書、請求書、領収書などの関連書類のやり取りをメールで実施した。さらに、問い合わせへの回答もメールで提供し利便性を高めた。また、リピーター顧客からの要望に応じて Teams を使用したオンライン打ち合わせを提供した。



合同下見会の定期開催



オンライン打ち合わせ

(ウ) お客様満足度の向上

① OUR CREDO (SPS サービス憲章) の実践

長年の経験から生まれたホスピタリティマインドを「OUR CREDO」として集約し、全スタッフに内容を共有した。休館日に行う研修でサービスを振り返り、毎日のお客様対応を通じて、「OUR CREDO」に則した品質向上とサービス拡充の機会を見つけ、積極的に成長させる文化を育てた。

② サービス向上研修の継続

お客様からのフィードバックやスタッフが経験する問題点を共有し、サービス品質と顧客満足度を向上させる業務改善に取り組んだ。研修では、お客様対応ロールプレイを行うことで電話対応をはじめとする高度なお客様対応スキルの向上に努め、施設知識の確認も行った。

③ 責任者会議の実施

毎月 1 回、各業務の責任者が集まり、業務で明らかになった課題やその他のお客様対応について改善が必要な案件を共有し、責任者間での議論を深めてより良い運営に繋げた。内容に応じて、定例会などを通じて大阪市の担当部署とも情報を適宜共有した。

④ スタッフ研修

消防避難訓練、人権、情報公開制度、個人情報管理等、公共施設運営に必要な基本研修に加え、大規模催事の誘致率向上及びサービス向上につなげる為のワークショップ等、全スタッフ対象の研修を計画的に実施した。

【入社時研修】

- ・ サービス接遇研修（講師：SPS）
- ・ 顧客満足研修（講師：SPS）
- ・ コンプライアンス研修（講師：SPS）
- ・ 貸館予約受付研修（講師：SPS）
- ・ 貸館機材操作及び実習（講師：SPS）
- ・ 予約システム操作研修（講師：SPS）
- ・ 公会堂の歴史/中之島周辺の沿革（講師：SPS）
- ・ 現金管理業務研修（講師：SPS）

【通常時研修】

- ・ 情報公開研修（7/23 実施 講師：財団）
- ・ 人権研修（5/28 実施 講師：財団）
- ・ サービス、接遇マナー研修（5/28、9/24 実施 講師：SPS）
- ・ 個人情報保護、機密情報保護（10/21 実施 講師：SPS）
- ・ コンプライアンス研修（8/31、11/30 実施 講師：SPS）
- ・ 利用促進活動についての理解と促進（5/28、適宜実施 講師：SPS）
- ・ 公会堂・中之島知識アップ研修（7/23 実施 講師：財団、SPS）
- ・ 緊急時対応（防災／避難訓練）研修（7/23、1/28 実施 講師：財団、SPS）
- ・ 環境保護活動への理解（6/17 実施 講師：SPS）
- ・ PC スキルアップ研修（5/28、7/23、9/24 実施 講師：SPS）
- ・ 他施設見学（7/10 小金井宮地楽器ホール、11/26 京都市京セラ美術館、平安神宮他）



公会堂知識アップ研修



避難訓練の様子

3) 自主事業の実施

自主事業のイベント企画について、まもなく開催される大阪・関西万博を機に大阪や中之島エリアの魅力を発信できることを意識し企画した。隣接する施設や大学などと連携事業のほか、万博協会や大阪観光局などの広報・後援協力を得て、大阪府下だけでなく他府県への情報発信に努め、公会堂だけでなく中之島全体の認知向上に努めた。

(ア) 「駅からはじまるアートイベント『キテ・ミテ中之島 2024』」連携事業

ー つづく！！未来の大人たちへ ー

・趣旨

芸術をきっかけに中之島を訪れ「中之島＝文化・芸術の地」とあらためて感じていただくとともに愛着と理解を深めていただくイベント「駅からはじまるアートイベント キテ・ミテ中之島」(京阪ホールディングス株式会社主催)に参画。2024年で13回目の開催となる本イベントに連動し、公会堂の認知拡大と地域とのつながりを持ち、近隣施設や企業との連携強化を図る。

・実施内容

5月25日(土)～6月30日(日)の期間、公会堂地下1階共有スペースにて、2作品を展示。明るい色彩の柴清文作「Welcome」や、大阪市立銅座幼稚園、大阪市立城東幼稚園の園児が制作したみこし形の立体物「こども元気かつぎっこ！！」を展示。園児の作品は、文化を担い多くの歴史を紡いできた公会堂から未来へつづく明るいエネルギーを日本伝統の熨斗袋を使用して作成したものだった。自由に見学できる共有スペースに作品を展示することで、公会堂の公共施設としての貸室利用の認知向上と周辺施設との連携を通じて回遊性をつくり中之島が持つ「文化・芸術の地」というイメージを広く発信した。



展示作品「Welcome」



展示作品「こども元気かつぎっこ！！」

(イ) 講演会「いよいよ万博 ～ 55年を経て再び大阪で その役割と進化とは ～」

・趣旨

大阪・関西万博の開催を翌年に控え、市民をはじめ多くの方の興味と関心を高め、万博の機運醸成を図る。大阪大学 2025 年日本国際博覧会推進室とともに、大阪・関西万博会場運営プロデューサーの石川勝氏を招いて、講演いただく。また、治安維持の啓蒙の一環として、大阪府警察音楽隊に演奏いただき、開催都市として万博ムードを盛り上げていく。

・実施内容

開催日時		会場	参加人数
7月7日（日）	13:30～16:00	中集会室	153人

講演会の内容として、まずは大阪大学 2025 年日本国際博覧会推進室による万博への取り組み、学生を中心とした活動を紹介した。その後、会場運営プロデューサーの石川勝氏に『新たな時代の万博を共に創ろう』と題し、前回の大阪万博から 55 年を経た次回万博の役割と進化について講演いただいた。また、万博成功には大阪の治安維持が欠かせないことから、警察広報より万博開催期間の注意点などをお話しいただき、公会堂の会場の雰囲気を活かして大阪府警察音楽隊のコンサートを開催。これにより、開催都市として万博の機運を醸成し、来年の万博への興味と関心を高めた。

大阪大学 2025 年日本国際博覧会推進室によるセミナーでの紹介の効果もあり、当初の定員（150 人）は 1 週間ほどで満席になったため、増席した。当日は猛暑日ということもあり、欠席者も出たが、石川プロデューサーによる、第 1 回万博から来年の大阪・関西万博の目的までを語る講演に熱心に耳を傾けていた。当日は市民が制作した大阪・関西万博の模型や、公式キャラクターのミャクミャクも登場した。参加者からは「万博の意義や歴史が分かった」「万博の計画を立てて楽しみたいと思った」などの期待の声が寄せられた。中には万博のボランティアを予定している方も参加されており、イベントへの関心と来年の万博への期待感をさらに高めることができた。



(ウ) 公会堂わくわく探検隊

・趣旨

夏休み期間に、小学生とその保護者が一緒に楽しめるイベントを開催。大集会室・中集会室・特別室の見どころをガイドがこども向けに紹介し、免震階の案内を通じて最新免震技術など、公会堂の歴史と現在を楽しく学んでいただく。イベント最後には公会堂に関連するオリジナルのワークショップを催し、家族で過ごす時間を通して未来のファン獲得を目指す。

・実施内容

開催日時		会場	参加人数
8月8日（木）	10:00～12:00	大集会室・中集会室 特別室・免震階	こども 23 人 おとな 20 人

小学生とその保護者を対象に、大正時代の貴重な意匠が残る 3 部屋と、普段は入ることのできない免震階をガイド付きで探検し、公会堂の歴史、見どころ紹介と地震から貴重な建物を守る仕組みについて画像や解説を用いて分かりやすく学ぶ内容とした。また、探検後は特別室のステンドグラスをモチーフとした工作ワークショップを行い、公会堂での思い出づくりと興味に繋がった。アンケートでは「来たことはあっても説明がないと分からないことがあり歴史を感じることができた」「装飾やシャンデリアを双眼鏡でゆっくり見てみたい」などの声が聞かれ、親子で楽しみ、今後も公会堂への興味、関心を持ち続ける機会となる催しとなった。



(エ) 生きた建築ミュージアムフェスティバル

・趣旨

今年で開催 11 年目を迎える大阪発の日本最大級の建築公開イベント「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪」(通称：イケフェス大阪)に今年も参画。全国から集まる建築ファンや観光目的の方をターゲットに、現在も現役で利用されている「生きた建築」を公開し、受け継がれる公会堂の歴史や魅力を広く知っていただく機会とした。中集会室では建築に関するトークイベントとコンサートを開催した。

同日に公会堂東側の中之島公園で開催される「北浜蚤の市」と連携し、公会堂の東広場でも蚤の市の複数の店舗を設置して相互で集客につなげる。

・実施内容

① 生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪 2024 特別公開

開催日時		会場	参加人数
10 月 27 日 (日)	11:00～17:00	大集会室・中集会室 特別室・第 5 会議室	4,112 人

公会堂では大集会室・中集会室・特別室のメイン会場に加え、第 5 会議室を特別公開した。今年は特別公開に加え、中集会室で音響の専門家を招き、「建築と音と音楽」と題して残響音などについてご講演いただき、バリトン歌手によるミニコンサートを開催する特別企画も実施した。イケフェスのガイドブックにも掲載されたこともあり、トークセミナーとミニコンサートは注目度が高く、多くの方が楽しみに来場されていた。

その他、大阪市立科学館からお借りした書籍を中集会室に展示し、昭和初期の建築図面や室内灯など、多くの建築ファンの心をくすぐる内容となった。参加者からは「講演と音楽の体験を一度に経験し、一体感があった」「音の響きがすばらしい」といった声が寄せられ、その素

晴らしさを実際に体感していただいた。

また、大集会室では天井のシャンデリアを客席近くまで降ろし、その大きさや輝きを間近でご覧いただけるよう演出したこともあり、いつもとは違った建物や装飾の魅力を伝えることができた。副館長による部屋の見どころ解説を3回行い、多くの方が立ち止まって熱心に耳を傾けていた。

イケフェスへの参加施設は年々増えており、今年は過去最高の174施設の参加となったが、その中でも公会堂は来場者数1位(4,112名)を記録した。上述した見どころ解説やミニコンサートなどのイベントを工夫したことに加え、公会堂の東側の中之島公園で実施された「北浜蚤の市」とも連携し、複数の店舗を公会堂東広場で展開したことで来館を促す動線ができており、集客に繋がったと考えられる。全国から建築ファンが集まり、公会堂の存在とその価値を多くの人に知ってもらえる機会となった。



(オ) 大阪中之島 名建築ガイドツアー

日本銀行大阪支店 大阪府立中之島図書館 大阪市中央公会堂

・趣旨

明治、大正期の歴史的建造物であり、今なお経済・芸術・文化の拠点として知られる中之島を代表する3つの名建築（日本銀行大阪支店、大阪府立中之島図書館、大阪市中央公会堂）を1日で巡るガイドツアーを昨年に引き続き開催。近隣施設と連携し市民をはじめ中之島エリア及び大阪の都市魅力向上を図る。

また、「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪」のアフターイベントとして連携し公式ガイドブックで告知をすることで、認知度向上を目指す。

・実施内容

開催日時		会場	参加人数
11月15日（金）	① 10:30～11:30 ② 13:00～14:00 ③ 14:30～15:30	展示室・特別室・ 免震階	56人

昨年に引き続き、大阪中之島を代表する3つの名建築を1日で巡るガイドツアーを実施。普段は入れないような特別エリアを見学工程に組み入れ、1回あたり20名を定員とした。イケ

フェスの公式ガイドブックへの掲載効果もあり、約 720 名の応募のうち 60 名が抽選で当選となり、倍率は約 12 倍という人気の高いイベントとなった。公会堂では、展示室や特別室をご案内した後、通常のガイドツアーで紹介している免震装置について、外観から見える部分や、通常は案内していない建物の地下にある免震装置を実際にご覧いただけるエリアへご案内し、特別な体験を提供した。参加者は公会堂を守る免震装置の仕組み等に熱心に耳を傾けられた他、展示室での公会堂の歴史や、特別室での意匠や建築の解説を楽しみ、室内の写真撮影満喫されていた。

また、昨年好評だった参加者へのプレゼントとして、3 館の創建当時の写真を掲載したオリジナルカレンダーを今年も製作した。さらに、当日の巡回ルートや時間などを記載したリーフレットに各館の記念スタンプを押せるようにし、名建築ツアーの記念をお持ち帰りいただけるよう工夫した。記念スタンプの場所や案内の仕方なども昨年からアップデートし、より分かりやすく楽しんでいただけるように各館で協力し、3 館を巡るつながりと特別感を提供した。

参加者からは「重要文化財の公共施設は珍しく有意義である。普段は入ることができないためとても楽しめた」「歴史的な建物に現代的な免震装置があることが面白い」「1 日で統一されたテーマで見学できたのですごくわかりやすかった」といった声が寄せられた。1 日を通して 3 館それぞれの歴史と現代に合った技術をお伝えすることで、中之島全体の魅力を発信することができた。



(カ) 特別見学会 ～歴史と意匠～

・趣旨

大阪を代表する建造物であり重要文化財である公会堂の館内を、スタッフが見どころと歴史を解説しながら周る。市民をはじめとする多くの方々にその魅力を体感いただき、公会堂の存在意義や価値への認知を高める機会とする。

・実施内容（開催日時・参加人数）

開催日時		会場	参加人数
2 月 15 日（土）	① 10:00～11:15	大集会室・中集会室 小集会室・特別室	141 人
	② 11:00～12:15		
	③ 14:15～15:30		
	④ 15:15～16:30		

- ・内容

毎年恒例の公会堂を代表する4つの部屋の歴史と意匠をガイドが案内して巡る「特別見学会」を実施。普段は貸室のため自由に見学できないため、このイベントへの期待も高く、申込開始前から問合せがあり、申込日から予約が殺到し各回満席となった。中でも公会堂館内のレストランと連携したランチ付コース（午前のみ）の人気の高い。

関東地方、四国・九州地方からの参加者もあり、部屋の意匠紹介の他、公会堂の歴史、保存活動の解説や具体的な使用例を伝え、重要文化財である公会堂への理解と貸館としての認知度を高めることができた。お客様からは「1部屋ずつ丁寧に説明してくれて愛あふれるツアーだった」「わかりやすい説明で大阪大阪をますます好きになりました。大阪人としての誇りをもって生きたい」「公会堂の素晴らしさを知った」「これからも残して欲しい」などの声が寄せられ、高い満足度がうかがえた。



(キ) オプションガイドツアー

- ・趣旨

通常のガイドツアーとは別に、貸館利用者に対してオプション（有料）で公会堂の歴史や部屋の見どころをスタッフが紹介し、貸館としての公会堂の付加価値を高めることを目的とする。催しの主催者や、旅行代理店等と日時や部屋、催行時間、ルート、内容、参加人数を調整し、貸館運営との両立を図っていく。

- ・実施日時・参加人数

令和6年4月～令和7年3月 合計7件 157名

- ・実施報告

オプションツアーの申し込みの理由は多岐に渡り、建築関連団体や学校の研修目的や旅行会社の企画ツアーなどがあった。また今年は、クラシックコンサートの開演前にガイドツアーに参加できる「見学ツアー付チケット」を企画する主催者からの希望もあり、公会堂開催の付加価値を提供することができた。その他、公会堂近隣に位置する企業からは、「社員が近隣にある公会堂について知る機会としたい」と社員アクティビティとして申込されたケースもあり、ニーズに合わせてトーク内容を工夫したことにより非常に高い満足度を得ることができた。

実施前には、ツアー前後のスケジュールや参加者の背景や興味の範囲などを打合せし、ニーズに合ったツアーを催行できるように調整を行ったことで、参加者や旅行会社、主催者から好評を得ている。

4) 広報活動（情報発信及び利用促進業務）

令和7年の大阪・関西万博を控え、大阪全への注目が高まっている。観光地や大阪を詳しく紹介する特集が増える中、その機運に乗じて、公会堂の認知拡大と、重要文化財でありながら貸館施設として利用できる公会堂の本来の価値を高めることを目的に、広報活動を展開した。

映像や画像だけでなく、公会堂がデザインされた万博関連の広告やパビリオンに使用される機会も増え、これまでにない媒体で取り上げられることが多くなった。これにより、公会堂の認知向上の機会が増えており、万博が近づくにつれ、さらなる注目が期待される。

また、大阪観光局主催の「中之島エリア MICE 会議」や、中之島エリアの文化施設で構成される協議体「クリエイティブアイランド中之島」に継続して参画し、中之島全体の魅力の情報発信や関係性構築に努めた。

「クリエイティブアイランド中之島」では、参画する団体の15所にミーティングポイント（サインスタンド）を設置し、多くの人々とのコミュニケーションや双方向の情報収集によって、中之島の新たな魅力を発見することを促した。世界的に活躍する演劇作家であり、演劇カンパニー「チェルフィッチュ」主宰岡田利規氏による「中之島15の場所での物語」の創作にも協力し、各施設のサインスタンドにその冊子を設置した。訪れた人々がそれぞれの場所で物語を手にとって読むことで、中之島の環境や特性と相まって、ミーティングポイントを巡りながら想像を膨らませることができる新しい試みとして、メディアにも取り上げられた。また、公開に合わせて岡田氏を招き、トークイベントの開催にも繋がった。



サインスタンド設置の様子



ロゴマーク



岡田利規氏トークイベントの告知

(ア) 公会堂 HP を活用した情報発信

「イベント紹介欄」「お知らせ欄」を用いた催事情報や貸館利用情報、抽選会情報に加え、公会堂周辺（公園側）の情報についてなど最新のコンテンツをタイムリーに発信するよう努めた。

また、貸室利用の増加が続き、下見の要望に応えにくくなっている中、3D バーチャルツアーや360度ビューなどの画像活用を引き続き積極的に進め、利用促進に繋げた。

(イ) プロモーションビデオの運用

大集会室開放日や自主事業開催時に、通常自由に見学することができない公会堂の各室の様子や公会堂の歴史を館内写真とともに紹介する公会堂のプロモーションビデオを、開場前やイベント中に放映し、付加価値向上につなげた。

(ウ) X (旧 Twitter) による情報発信

令和2年に開設したXを継続運用し、フォロワー数を約4,000名まで増加させ、公会堂の魅力を広く発信した。スタッフの目線だからこそ見える公会堂の魅力を写真や文章とともに工夫を凝らし投稿した。また公会堂に限らず中之島や船場界隈の周辺施設やイベントとも連携し投稿を行った。公会堂や中之島の思い出とともにコメント投稿されることもあり、フォロワーとの繋がりを感ずることも増え、好評を得ている。



(エ) 記事掲載・HP掲載・メディア（新聞・TV・ラジオ・雑誌等）での公会堂紹介

大阪・関西万博に関連する掲載物が増加傾向にある。観光地としてだけでなく、「近代建築」や「レトロ建築」といったテーマの中で紹介する記事もあり、中之島エリアの特性を掘り下げた内容で紹介される機会が増えた。

映画やプロモーションビデオのロケーションとしても広く知られるようになり、公会堂を訪れる利用者やガイドツアー参加者からも「映像で見たことがある」などの声が聞かれる。大阪観光局、大阪フィルムカウンスルとも協力し撮影の下見や説明などを積極的に行い集会室の利用理由として定着しつつある。

主な掲載媒体は下記の通り。

◎新聞・新聞折込

- ・日刊工業新聞

◎テレビ

- ・TVCM「アバンギャルドディー×梅田サイファー」大阪ディステーションキャンペーンCM
- ・関西テレビ「あなたの町からハチエモン」
- ・フジテレビ「めざましテレビ」内「海外気分を味わえる 全国の洋館」

◎映画撮影

- ・「10DANCE」Netflix

◎WEB サイト

- ・GSJ 地質ニュース
- ・note 「Lumix×Lens Letter」
- ・大阪ミュージアム

◎書籍・雑誌・フリーペーパー

- ・湯浅邦弘著「近代人文学の形成」
- ・まち絵本「とことこおおさか」
- ・昭文社「まっふるマガジン大阪 26」
- ・婦人画報 2025 年 1 月号
- ・大阪中之島美術館イルミネーションパンフレット
- ・新潮新書「物語る近代建築」
- ・月刊雑誌「歴史人」
- ・月刊誌「SAVVY」
- ・雑誌「Hanako」
- ・建築画報「耐震改修特集号」
- ・令和 7 年度大阪府警募集パンフレット
- ・JR 東海「推し旅」アイドルマスター×大阪紹介パンフレット
- ・Gakken「地球の歩き方 大阪」
- ・学芸出版社「建築思想図鑑」

◎その他

- ・大阪関西万博 記念チケット（パスポートタイプ）
- ・トンデミ枚方「アトラクション内でイラストで登場」
- ・JR 三ノ宮駅新駅ビル工事用囲い
- ・令和 7 年度大阪府警募集ポスター用背景
- ・AMPERS&ONE「He + She = We」MV 撮影
- ・大阪・関西万博内フードコートの食品トレーイラスト
- ・JR 東海「推し旅」ヒプノシスマイクフォトスポット
- ・歴史街道 スタンプラリー
- ・帝国ホテル大阪「渋沢栄一と帝国ホテル」に関する展示

5) 利用者モニタリングの実施

公会堂の利用者の属性や動機を詳細に調査し今後の運営改善に役立てるために「施設利用者アンケート」を行った。アンケート形式は、参加者の利便性を考慮しオンライン及び紙の両方をご用意した。また、特別室ガイドツアーに関しても参加者の満足度と潜在的なニーズを把握する目的でツアー完了後にアンケートを実施した。

(ア) 施設利用者アンケート

- ・実施期間：令和6年8月1日（木）～令和7年2月22日（土）
- ・対象者：貸館利用者（主に催事主催者）
- ・回答件数：160件

今年度も年代を問わず多くの方々にアンケートに回答いただいた。利用者の年代別割合は、特に40代の利用率が前年比で増加し30代から50代が全体の60%を占めた。地域別では、大阪市内からの利用者が38%で最も多く、大阪府外からの利用者也昨年より増加して29%を記録した。利用者の主要な交通手段は電車で約65%が該当し、駅近という立地の便利さが再確認された。

職業別では「会社員」「自営業者」が全体の65%を占め、経済活動の活発化がうかがえる。利用頻度においては、「初めて」の利用者が減少した一方でリピート利用者が増加しており、施設に対する満足度の高さが推測される。

施設・設備に対する満足度は全体の88.1%と高い割合ではあったが、少数の改善要望も寄せられており、その内容は、インターネット回線の無料化やフリーWi-Fiの設置などであった。

利用理由については「交通の便が良い」という回答が最も多く、次に「利用料金がお手頃」「重要文化財であるため」と続いた。また、スタッフに対する評価では、「とても良い」「良い」の回答を合わせた割合が、事務スタッフは93.8%、舞台スタッフは90.2%であった。

再利用の意向については、約99%の回答者が「今後も利用を検討している」と回答し、施設の魅力と価値が高く評価されていることが伺えた。

(イ) 特別室ガイドツアーアンケート

- ・実施期間：令和6年4月1日（土）～令和7年3月31日（日）間のガイドツアー実施日
- ・対象者：特別室ガイドツアー参加者（中之島図書館コラボツアー参加者含む）
- ・回答件数：2,135件
- ・回収率：94%

令和6年度の大阪市中央公会堂ガイドツアーは、合計2,271名が参加し94%に相当する2,135名からアンケートの回答を得た。令和6年度の1回あたりの平均参加者数は25名以上（定員30名）で、依然として高い人気を博した。また、アンケート回答では、ツアー内容やスタッフの対応に高い評価が寄せられた。今年度は特に大阪府外や海外からの参加者の割合が増加し、公会堂及び中之島や大阪の魅力を広く伝える絶好の機会となった。さらに、隣接する中之島図書館と協力して、1日で2つの施設を巡る「モーニング付コラボガイドツアー」を定期的開催し、年間で106名に参加いただいた。参加者には歴史的建造物や近代建築に興味がある方も

多く、ツアーを通じて公会堂の歴史的・文化的価値を紹介した。

6) その他

(ア) 感染症拡大防止施策への協力と対応

コロナ収束後も館内に消毒液を設置し、利用者のご要望に応じて感染防止対策グッズや座席パネルの貸出を行うなど、厚生労働省の方針や世間情勢に合わせて感染防止対策を講じた。



大集会室の座席パネルの貸出



サーモカメラの貸出



消毒液の設置

(イ) 施設整備におけるトラブル予防及び来館者の安全確保への取り組み

大規模改修工事後 22 年が経過し、耐用年数を超える設備の老朽化が進んでいることを踏まえ、日常的に適切なメンテナンスを行うとともに、設備の更新工事について大阪市に優先度を示しながら提案を行い深刻なトラブル予防に努めた。故障停止が発生していたポンプ類一式の更新を進めた他、中集会室・小集会室・特別室の椅子や机の更新及び、特別室机脚を金具で固定して強度を高めるなど安全確保に努めた。



劣化による接合部のガタつきの進行により、強度が低下した椅子等の備品を更新

以上